

令和8年6月24日
教育長答弁実録
(教育委員会)

(問) 理工系分野への興味や探究心を育む環境づくりについて

理工系人材の育成・確保に向けて、小中学校段階から科学や技術への興味・関心を育むことや地域による体験機会の格差解消などを通じて、県内全域で理工系分野への進学意欲を高めるべきと考えるが、県として今後どのように推進していくのか、教育長の所見を伺う。

(答)

産業構造や社会システムの変化による労働力需給ギャップとして、いわゆる理系人材の不足が懸念されており、小中学校段階から理工系分野への興味・探究心を育むことや、産業イノベーション人材育成等に資する高校教育改革を進めていく必要があると考えております。

このため、小中学校段階におきましては、生活や身の回りの事象から体験的に学び、知的好奇心を育むことができるよう、算数・数学、理科等の授業改善に資する研修を充実するほか、「広島県科学賞」や「科学の甲子園ジュニア」の開催など、科学技術などへの興味・関心を高める取組を進めており、「広島県科学賞」で入賞した研究作品は全国のコンクールにおいても高い評価を得ているところでございます。

今年度からは、様々な地元企業とつながり、子供たちの体験機会を拡充することを目的として開設したウェブサイト「ミツカル！ ひろしまカンパニー」も活用し、理工系分野を含む産業界と連携した体験活動の一層の充実に取り組むとともに、その成果を全県に普及してまいりたいと考えております。

また、高校段階におきましては、

- ・ 理数系人材育成の改革先導拠点として、広島国泰寺高等学校に本県初となる理数科を設置し、大学等と連携し、新たな価値を創造していく科学技術人材の育成を進めるほか、
- ・ ロボット工学や情報科学など、最先端の情報技術を活用した学びができる実践的で魅力ある専門学科を設置し、産業イノベーション人材の育成を進めるとともに、
- ・ 複数の統合校に「新しい普通科」を設置し、文理横断的な学びにより、実社会が抱える様々な課題を解決する力を身に付けた人材の育成を進める

こととしております。

県教育委員会といたしましては、こうした取組により、小学校段階から科学技術に対する興味・関心を育むとともに、大学等と連携して理工系分野を主体的に学ぶ環境づくりを進めるなど、理工系人材をはじめ、我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材の育成に努めてまいりたいと考えております。